

戦争の記憶を紹介します

戦地から届いた手紙



この手紙は、太平洋戦争末期の昭和20年3月21日、19歳で特攻隊として戦地へ向かい、戦死した服部吉春さん(右写真)が、生前、家族へ宛てて送ったものです。ご遺族は、当時の手紙を今も大切に保管されています。



吉春さんは、8人兄弟の四男で、左上の手紙は右写真の左下2番目に写る長女さか江さんに送った手紙です。

「さかえちゃん 昨日はお手紙ありがとう 元気であるそうですね 兄さんも元気ですよ しっかり勉強して皆に負けないようにね(さようなら)」と、離れて暮らす妹を思う気持ちが綴られています。



親子で読みたい平和について考える本



へいわってすてきだね
あさと ゆうき
安里 有生/詩
ブロンズ新社

沖縄県在住で当時小学校1年生の安里くんが平和のメッセージとして書いた詩をもとにした絵本です。詩は2013年の沖縄全戦没者追悼式で本人が朗読し、沖縄のおじい、おばあが涙を流したそうです。



ヒロシマ 消えたかぞく
さした かず
指田 和/著
ポプラ社

広島で床屋をしていた鈴木六郎さん一家の、ほほえましい日常写真に溢れた一冊。この一家は原爆で全員亡くなりました。せめて本の中でもう一度思い切り生かしてあげたいという思いから作られた絵本です。



かわいそうなぞう
つちや ゆきお/ぶん
金の星社

戦争では人間だけではなく、動物も犠牲になったことを伝える絵本です。上野動物園で起きた実話をもとにしたお話で、1974年から1986年まで、小学校2年生向けの国語の教科書にも掲載されていました。

戦争の記憶を次世代につなぎ、平和の大切さを考えるきっかけとなる絵本を紹介します。ぜひ親子で一緒に読んでみてください。

戦争と平和 特集展示コーナー

市立図書館では、8月の太平洋戦争にまつわる記念日にあわせ、戦争と平和に関する本の展示コーナーを設置します。

期間

7月20日(木)～8月15日(火)
※図書館開館日時の詳細は、18ページをご覧ください。

※紹介した本は、市立図書館で貸し出ししています。